

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ぜひ今言われたように、やはり夏は夏らしくいろんなことができるように地元の方との話し合いの約束に沿ってきちんと進めると。余りしゃくし定規にやっちゃうと、その年の天候によって、また被害受けることもあるかもしれませんので、ぜひ海を守ると、約束を守るということで、夏は夏らしく過ごせるようにやっていただきたいと思います。

終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

○19番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

今回は、若者、女性など誰もが帰ってこれる糸魚川市にするために気持ち、心を込めて未来に希望の持てる戦略として、積極・果敢にチャレンジしてもらいたい6項目についてお伺いいたします。

1、糸魚川沖メタンハイドレードの活用策について。

- (1) 現状と課題について伺う。
- (2) 国の第3期海洋計画における方向性について伺う。
- (3) 採取方法等の研究推進について伺う。
- (4) 市としての活用策について伺う。

2、「中速鉄道」導入の可能性について。

- (1) 開発済みの車両、国内で導入されている曲線通過時の遠心力対策などの組み合わせで短期間で高速化できるとされているが、実現可能性は、7年程度というのが本当か。
- (2) 現状と課題及び概算事業費などの調査・検討については、どう思うか。

3、糸魚川市におけるAI・RPA活用について。

- (1) プロジェクト推進チームの設置と活用の可能性及び検証について、どう考えているか。
- (2) 導入の課題と今後の方向性はいかがか。

4、地域医療連携推進協議会の取り組み状況と課題について。

協議会における取り組み状況と課題は、どうなっているか。

5、ひきこもり対策について。

- (1) 市における現状と課題及び対応策の考え・支援は、どうなっているか。
- (2) ユースアドバイザー養成講座や市支援センターの開設及び相談体制は、どうなっているか。

6、地域産業振興策について。

- (1) リーサス（地域経済分析システム）の活用・実践について伺う。

- (2) 産業活性化センターの概要と取り組みについて伺う。
- (3) 市地域経済活性化プログラムの策定及び実行について伺う。
- (4) 市としてマイスター制度を確立する考えはあるか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現状は、国や研究機関で調査をしている段階であり、課題は採取方法や商業化などであると考えております。

2点目と3点目につきましては、今後も海洋由来のエネルギー資源の開発が推進され、採取方法等の技術開発について民間との連携を図りながら研究が進んでいくものと期待をいたしております。

4点目につきましては、これまで明治大学、松本特任教授をお招きいたしまして研修会を開催してまいりましたが、今後も国、県などの動向に気をつけながら情報収集に努め、その活用について研究してまいります。

2番目の1点目につきましては、過去に山形新幹線の庄内地方への延伸可能性を考える講演会において、7年程度で実現できる可能性があるという見解が示されております。

2点目につきましては、今年度より、県主催で実施いたしております上越北陸新幹線の直通運転化に係る勉強会に加わり、調査検討をまいっております。

3番目の1点目につきましては、業務フローの見直しなどの業務改善と一連でシステムを導入することにより、業務時間削減と生産性向上において効果を発揮するものと考えております。

なお、プロジェクト推進チームの設置につきましては、横断的に導入する必要がある場合に設置いたします。

2点目につきましては、主に対象業務の選定とシステム運用管理の煩雑さが課題として挙げられますが、今後は人口減少に伴う職員の減少が予想されるため、働き方改革や業務改善に有効な手段の1つとして検討してまいります。

4番目につきましては、協議会は厚生連病院が基幹的な役割を果たしている糸魚川、妙高、柏崎、小千谷、村上、佐渡の6市で構成をいたしており、各地域だけでなく、県全体の持続可能な医療体制の構築を目的に厚生連と連携し、知事へ提言を行ったところであります。

医療機関では、医師、看護師の不足が最大の課題であります。

5番目の1点目につきましては、当市ではひきこもりに関する相談は例年10件前後寄せられており、10代から40代の比較的若い世代が多い状況であることから、対応としては早期相談に向け、周知・啓発と本人及び家族への社会復帰に向けた継続的な支援に努めているところであります。

2点目につきましては、講演会の開催や研修会への参加により、ひきこもりへの理解や支援のため、スキルアップに努めております。

また、相談体制につきましては、県ひきこもり地域支援センターや地域振興局と連携しながら、持続した相談、支援に努めてまいります。

6番目の1点目につきましては、地域経済に関するビッグデータをわかりやすく見える化したシステムですが、現状では有効活用するまでには至っていない状況であります。

2点目につきましては、商工会議所が施設の移転計画に合わせて設置を検討しており、今後、市もセンター機能の役割について一緒になって検討してまいります。

3点目につきましては、2点目の産業活性化センターの設置と合わせて検討していきたいと考えております。

4点目につきましては、技能の継承や人材育成に資する手法の1つとして研究してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

メタンハイドレードでございますが、2018年2月1日に花角知事は、2027年、令和9年ごろまでに民間の商業化プロジェクトを開始すると国が明記したことを高く評価して、日本海側でも技術開発を進めてほしいと言われております。2017年11月、2年前ぐらいですかね、それは私も講演会聞かせてもらったんですが、明治大学の松本先生、これのまとめのほうで日本海の表層型ハイドレードは、ガスチムニーの中に高濃度で海上に集積するということと、この辺は、ベニズワイガニ、ノロゲンゲなど漁獲対象の生物群が多産するということと、3つ目に、資源が開発対象になるか否かの評価は、資源が豊かかではなく集積度、質によると。質なんですよね。日本海のメタンハイドレードは、1つの鉱床としての、規模は小さくても濃集度が高いというメリットがあって、回収技術次第で、商業的生産の可能性があるということ。

課題のほうは、水産資源にどう影響するか、事前の調査と評価が必須だと。2番目に、この辺での検討評価をしていく必要があるということで、そこで糸魚川市としては、メタンハイドレード研修会の、先ほどもありましたが、研修会の状況、取り組みはいかがか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

議員おっしゃいますとおり、糸魚川沖から柏崎沖にかけて、メタンハイドレードの集積地とされております。開発が進んでくれば、当市におきましてもいろいろな面で好影響があると思しますので、そういった調査の経過を見守らせていただいております。

当市の取り組みとしましては、平成27年9月に新潟県表層型メタンハイドレード研究会というのが生まれまして、そちらのほうに第1回から会議に参加をさせていただいております。また、それとは別に、関連する会議としましては、26年6月には、新潟市で開催されました明治大学等の主催になっております研修会に、当時の副市長を含め4名の参加をさせていただいております。その後も28年2月に、市職員研修として市民会館で講演会を開催しております。また、平成29年11月には、糸魚川市と糸魚川法人会様の共催で講演会を開催させていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

それ、大分勉強してるんでかなり詳しいと思うんですが、この影響する事前の調査をどう評価するか、検討評価も含めて新しい情報をお聞かせ願いたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

今年度の調査が、柏崎市沖で開催されることになっております。今年度の調査につきましては、メタンハイドレードが分布する海域における海洋調査の手法の検討ということで、簡単に言いますとどのような調査をすればいいのかというような手法を検討するということとございます。海洋調査を行いますと、海洋生物ですとか周辺環境に影響を及ぼす場合がありますので、そういったものがどのような影響を及ぼすのかという調査が、ただいま実際には実施されているということとございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

その影響を見守らなければならぬんですが、ホームページとか見ると技術開発に関する調査研究が進んでいて、7社ほど公募で大学から民間含めてかなりの公募で検討してるんですが、その辺の状況、技術開発の状況についてお伺いしたいと思うんですがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

メタンハイドレードの特徴としましては、太平洋側と日本海側で大きく違うという特徴があります。太平洋側は、砂の中に埋まっている深層型、いわゆる砂層型と呼ばれてるんですけども、深い位置に大量のメタンハイドレードがあるというのが特徴であります。こういったところでは、長期生産技術の開発ですとか、探査、試掘などという項目が既に上がっておりまして、一定の技術の進捗が進んでいるものと思っております。

一方、日本海側に多くあります表層型と呼ばれております比較的浅い層にあるメタンハイドレードにつきましては、現在まだ採掘技術等が進んでおりませんので、先ほど申し上げましたように調査がこれからというところになっておりまして、その調査のほか、回収ですとか生産技術の調整ということで、少し太平洋側に比べるとおくらしている状況にあるというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

その中で技術開発の調査研究、検討内容について、表層型メタンハイドレードの回収時及び回収後の地盤安定性の評価方法では、回収率が高くなるような、勾配での採掘とかメタンハイドレードの残存層の有無の効果など、回収に伴う事象への調査検討を行っておるということで、最適な勾配などを求めているということなんですけど、ぜひすばらしい、糸魚川沖にあるんで、大学、企業とのネットワークももちろんなんですけど、中学生、高校生にもやっぱりこの辺の技術、どうやれば自分たちで研究せえっちゃんじゃないですけど、ぜひこの学術研究ネットワークみたいなのを構築して、競争研究活動を進める必要があると思います。

そこで、糸魚川市としては、私はチーム糸魚川で取り組んでいくべきだと思うんです。その盛り上がり糸魚川に結びつけるというか。そこへ上げていただくような、糸魚川に上げていただくような取り組みが必要になってくると思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

先ほど申しあげました新潟県の研究会につきましては、県内の大学、企業、市町村など39団体の参加で会議が進められております。そういったところのお話と、先ほど申しあげましたように調査が本年度から開始されているということで、そういったものを見させていただきまして、その調査の進捗度合いによりまして議員おっしゃいますとおりチーム糸魚川での取り組みが必要になってくる場合もあるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

チーム糸魚川になる場合もあるということで、ぜひチーム糸魚川で取り組んでいただきたいものだと私は思っておりますし、この海を含めた大地の公園ジオパークなんです。その優位性がありますので、それをどう生かすか、糸魚川市民にかかっているんじゃないでしょうか。糸魚川市民が熱意を持ってどう勉強に当たって、研究に当たって、どうやっていくかを糸魚川市民が盛り上げられるような、私はすばらしい取り組みを、未来の戦略として今がチャンスだと思ってます。今、39団体で取り組む調査、どうなっていくかわかりません。だめかもわかりませんが、その研究を子供たちに教えていって、未来で取り組むべきものだと思うんですが、それをしっかり準備して、糸魚川の未来にふさわしい、来年が地方創生総合戦略見直しの令和2年でございます。その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

失礼しました。場合もあるというのは、調査結果がいい方向に向かっているならば、必ずチーム糸魚川で取り組むことになるんですが、調査結果次第ということが言いたかったという趣旨でご理解いただければと思います。

今回のメタンハイドレードもそうなんですけども、石油資源ですとか天然ガス資源などもフォッサマグナを代表するような地殻の変動によるものが大きいとっておりますので、そういったものを含めて、今後取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

次へ行きます。

2番目の中速鉄道、改めて中速鉄道ではなく、中速新幹線に研修会では変わったみたいなんですけど、日本海中速新幹線というところで勉強会が進んでいるみたいです。それで、いろいろフリーゲージトレインがいろいろなところでだめになっている。その辺はフリーゲージトレインはどうなったのか、教えていただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ご存じのようにフリーゲージトレインというのは、車輪と車輪の間隔を変えることによって、新幹線からそのまま在来線のほうに行き来ができるという車両でございまして、九州新幹線の長崎ルートへの導入ということを目指して研究が進められておりました。またその先には、北陸新幹線の敦賀までは開業見えとるんですが、そこから大阪までの間というのは、まだ着工もされてませんので、それまでの暫定利用ということも見据えて、研究開発が進められておりましたけど、技術的な課題というものと、あと維持管理の問題ということで、平成30年、昨年正式に導入というものが断念をされたという経緯がございます。当然、九州新幹線への断念ですので、北陸新幹線への導入というのでも断念されたということでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ断念されたんで、いろいろな形でだめかなと思ったりしたんですが、ちょうど2年前、山形新聞で、先ほども市長答弁にありましたように7年ぐらいでできると。中速鉄道、今、中速新幹線、そういうのが聞いて、先ほどもありました6月に研修会、また9月10日にも勉強会ですか、やっ

ていただいている、この情報が全然議会にわからなかったんですね。改めてやっとな聞くと、こういうのが出てきたと。私は素晴らしいことだと思うんですよ。糸魚川から直江津含めて長岡、フリーゲージトレインでも寺町からおりて、今、押上新駅できますが、そこを通過して直江津に行って、長岡と。これ素晴らしいことで、これもやっぱり議会に対しての建設産業常任委員会か、全員協議会にもお知らせしていただきたいと思っておりますし、9月10日に素晴らしい勉強会もやっておりますので、その辺も含めて、また情報提供いただきたい。その中で、この中速新幹線の有意性とメリットというのはいかがなんでしょうか、いかがです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

中速新幹線、中速鉄道、いろいろな呼び方がありますが、これの定義としましては、新幹線のほうから新幹線の幅で、そのまま在来線のほうにもう一本、もしくは二本、狭いところにもう一本線路を足したりして、そのまま走る。そこまではミニ新幹線で、山形とか秋田と同じなんですけど、それに加えて、例えば車両の改良ですとかカーブの区間を緩和したりして、スピードを上げていこうという考え方の鉄道でございまして、メリットとしましては、フル規格の新幹線に比べて圧倒的に安いコストで実現できると。結果的にそういうことをやることで、早い利用、供用ができるということがメリット、そういうふうに言われております。

勉強会等に関しましては、まだ県のほうはフリーゲージトレインを断念して、その中で北陸新幹線と上越新幹線をいかにしてつなごうかという勉強会を本当始めたばかりですので、糸魚川市のほうもそれに参画をいたしまして、また必要な段階を見て、議会のほう等へは報告をさせていただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に進んできてるなということもございまして、新幹線からそのまま、フリーゲージと一緒に在来線においてこれ、在来線のある各所の信号やカーブなどを改良すれば、在来線との走行速度、新幹線と在来線の間くらいの200キロから250キロ走行が可能と。素晴らしいと思うんですよ、この辺の勉強会だけでなく、そういう調査研究もはしている。2年前からやっとなということになれば、そういう情報も提供していただいて、先ほどでないですけどやっぱり小学生、中、高、高校生までやっぱり勉強していただけるような環境だと思うんですよ。その辺を含めて6月勉強会、9月10日に勉強会された中で、具体的ないい状況があれば教えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

この勉強会といいますのは、先ほどのフリーゲージトレインの断念を受けまして、県としましては過去に新幹線と新幹線をつなぐ調査というものをしております、そのときには新潟県のほうは、フリーゲージトレインでつなぐという方向性を示しております、国に対してもそのような要望をしてみましたが、その結果、今先ほど答弁しましたようにフリーゲージトレインがだめだということになりまして、そういうのであればいろんな可能性ということを含めて、今度は沿線の関係ある市も交えて、その方向性について考えていきたいと思いますということで、ことしから勉強会を始めたもので、出席者も今はまだ担当レベルで、過去のそういう山形の事例とかその辺を紹介して、これから勉強していきたいと思いますということで、今年度3回を予定しとるということで、まだ本当に手順としては、イロハのイのぐらい、イの手前ぐらいの状態ということで、なかなか中速鉄道、中速新幹線にいたしましても技術コンサルタント会社の人ですとか研究者の方が提唱をされておまして、新潟県としてはまだ、ちゃんとした検証というものはなされていないということもございませぬので、その辺についても今後、新潟県と一緒に勉強していく中で、私どもも情報として吸収をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ3回、まだ2回ですけど、今後も行われると。イロハのイでもいいと思いますよ。これぐらいの情報が出てきとると思うので、ぜひ県、県がまだ検証していないかもわかりませんが、糸魚川に対してメリット、優位性っちゃ、すごいあると思うんで、ぜひとも北陸から糸魚川結んで、直江津、長岡、できる体制、先ほどのメタンハイドレードじゃないですが、ぜひとも糸魚川市一体になった取り組みが必要になってくると思います。

それと、先ほど建設産業常任委員会や全員協議会でも、こういうのを本格的にやるとかではなく、勉強のイロハのイでいいと思うんですよ。こういうのがあるということをお示ししていただきたいと思ひますし、その講演内容だと、もうはい2020年、来年に本格調査、1次試験車設計開始を予定しとるんですね。もう実現可能なところで、もう2029年、もう10年後ぐらいに長岡、糸魚川の新幹線が直通するという講演内容がある。これだけの提案、市民全体で大いに進めていくべきだと思うんですが、市長、いかがでしょうか。私はやるべきだと思うんですね。そこまで煮詰まってないかもわかりませんが、こんなすばらしいチャンスはないと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）



お答えいたします。

私のところまでは、そのような詳しいものはまだ来ておりません。ということは、まだまだいろんなところを模索しながら出てくるんだろう、まとめるんだろうということであるわけでありまして、まだそのような段階と私は捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

まだ担当レベルなのかもわかりませんが、新幹線をそのまま、羽越新幹線だと、予定だと2060年なんですよ。その半分、2030年でできる中速新幹線、半分なんです。それと概算事業費、普通の新幹線だと、その5分の1でできるということも聞いております。その辺はやっぱり必要だと思うんで、ぜひお願いして、次に移らせていただきます。

次、AIとRPAでございますが、この辺、新潟県でも長岡市、妙高市、長野県では塩尻市、伊那市含めてやっておりますし、つくば市、豊橋市、熊本の宇城市など、素晴らしい取り組みをされているんですが、この辺の先進地とか情報収集、取り組みは、どこまで収集しているか、お伺いしたいと思いますし、これを本当にやる方向なのか、いつ取り組む予定なのか、お伺いしたいと思いますし、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

今、議員おっしゃった各市で今RPAの取り組み、いわゆる調査研究を進めているところであります。いろいろまくいくか、あるいはまだまだといったようなところもあると思いますけども、糸魚川市におきましては、ことしの3月に庁内の研修会に参加しております。今のおっしゃったRPA事例の紹介、それからワークシートを用いて今のやってる業務でRPA適応してやれるのはあるのかどうかといったところを、今、調査研究をしているところであります。今後、どんな業務ができるかといったところまで、少し階段を上がって、さらなる取り組みを進めたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

妙高市でも4月にプロポーザルを業者が決定して、5月には提案のヒアリング、業者選定、契約締結、検証の委託ということで、6月には各課のヒアリング、効果測定の検証、取りまとめ、8月には調査結果の報告書を出してもらって、導入予算、効果、やっております。ほかのところもやってるんですが、一番言いたいのが仙台市の事例で、業務効率化の切り札と言われております。それで、仙台市は予算化前に議会に示して、実証実験への協力に名乗りを上げてくれた民間のデリバリ

一コンサルティング、i p a S、その予算とかはわかりませんが、予算化前なんでそれを民間にアピールしたら飛びついてきていただいたんだよね。やっぱりその辺も含めてやっていただけるような環境づくりは、私は必要だと思いますし、総務省によるR P A導入補助事業も始まったということを知っています。その辺も含めて、今やっぱり取り組むべきところに来ると思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

仙台市が大手の情報処理会社と協定を締結し、今おっしゃったような形で進めているということは、事例研究の中でも承知しております。いずれにしても、そういった事例を参考にしながら進めていかなければならないことだというように重々承知しております。ということで、先ほど答弁しましたように一歩階段を上って、取り組みを進めていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

進めるということなんで、一歩階段ではなく、10歩ぐらい進めるような形、同時進行でいいと思うんですよ。やっていただけるような民間を、予算化してもらわんでもいい、無償でもできると思うんです。その辺飛びついていただけるような形もとりながらやっていく、事例もあるんですから、ぜひやっていただきたい。

それと業務時間削減率が、結果として70%から90%、それが複数あるっていうんですよね。糸魚川はどこまでどう削減するかわかりませんが、やってみないとわからないので、一歩一歩やったりやいつまでたってもやれませんので、ぜひともすぐ早期に取り組むべき、私は事柄だと思うので、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

仙台市の例でいきますと、今の大手の情報会社とR P Aの有効性を実証して、行政6業務の作業時間が70%以上削減できたということですが、一番の問題点は、市の課題は、仙台市と糸魚川市の人口規模が大きく違うということだと思います。二十数倍以上の人口の開きがあると、取り扱い件数がおのずと違います。仙台市で1,000件あっても糸魚川市で20件だとすれば、おのずと費用対効果の面というのも出てこようかと思います。こういったところからも大手の情報会社のほうは、仙台市と、大きいところと組むことによって、実証実験をしやすかったんだというように思います。私どもも、ほかにそういうところがないかということも議員提案の部分も情報会社等

に情報提供する中で進めてまいりたいと思いますが、その部分ということをご承知おきいただきたいなというように思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

仙台市と比べれば、そら人口規模は違うでしょうけど、違う妙高や長野の塩尻や伊那、含めて熊本の宇城市、いろいろなところで、糸魚川市を見て、どこが削減率が高い、それからやっていけばいい、1つか2つでもいいんです。そんな最初からどばってやるのではない。その調査研究を実証実験しながらどうするかでいいんです。まずそこをやらないことにはできないでしょう。でかい人口規模とか、それは関係ないんですよ。糸魚川市どういう実証実験で、どう削減率があるかを実証実験すればいい。そこから始まっていいんです。削減できんきゃやらんでもいいんですよ。あるところを、幅が大きいところから1つでも2つでもやっていけばいい。その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、全国の導入事例を見ますと、例えばふるさと納税の処理であったり、住民異動届の入力であったり、市民税業務であったりと、幾つかの事例が出ています。今ご指摘の熊本県の宇城市でふるさと納税の実証実験を行いました。その結果、5年間で結果的には11万円ぐらいしかメリットがないだろうということであります。今のご指摘の、要は早くやれということでありますが、私どもも来年度に向けて、じゃあ何の業務をやっていけばいいかということは今、調査研究しております。できるならば来年度にそういった実証実験的な検討ができればというようなことで、今取り組みを進めてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

来年度はやるということで、まだ来年までに大分あるんで、実証実験も含めて調査研究すべきところだと思いますので、ぜひお願いして、次に進みます。

市長が会長に、県知事に要望したということで、今回の定例会の初日に、市長から行政報告ありました。協議会として9月10日に新潟県知事に対し、地域医療存続のための提言を行うとの報告がありました。提言を行った際の状況と感触について、どんな状況だったのかお伺いしたいと思いますが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

知事以下、関係する部・課長、また関係する職員も同行する中で、我々の要望につきまして、提言につきまして、知事といたしましては承りましたと、検討をいたしますというようなお言葉で受けとめていただきました。県内全域のやはりこれからの地域医療というものを一市では、私は対応できないところに来ている状況を感じたものですから、関連する、要するに同じような環境の市が集まって協議会をつくり、提言をまとめたものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

そこで医師確保、看護師不足も含めて医療人材の確保や医療・介護の提供体制確保に向けた調整など、本当に全県的な課題である状況の中で持続可能な地域医療体制の構築のため、今後の見通しをどのように捉え、それに対してどのような取り組みをしていくか、お伺いしたいと思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今あるこの地域医療計画というようなものではなくて、今ある状況はやはり以前に計画されたものであるわけであります。

しかし、今非常に医師の研修制度もまた変わる、今状況にあります。そうしますと本当に我々、地域医療はどうなるかというのは、非常に先が見えないところがございます。人口減少、そして当然、少子化、高齢化の中において地域医療はどうあるべきかというようなところもあるわけであります。

そうしたときに私は、やはり本当の我々県内の医療は、しっかりどうあるべきかというのは、やはり医療機関にお任せするだけではなくて、県が県土の発展ために何が必要なのかという段階の中、そういうレベルの中から地域医療をその中に入れていただきたいというのも、我々の提言の中に入れてさせていただいております。そういうものをしっかり理解した上で、県がしっかりとした県の発展のために、そして、これからの持続可能な県のために位置づけをしていただきたい。ですから、決して県立病院のみならず、そして厚生連病院だけでなく、それは当然、ほかの民間の病院も含め、そして医師会としっかりとした連携をつくって、私は新たな医療計画というものをつくっていただきたいという気持ちも述べさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に全般、県の地域医療計画を含めながら全体を見てやっていただきたいと思いますし、新潟県は、医師充足率が全国で46位ですか。本当に根本から見直すところであると思いますし、ある新聞で経営改善の秘策は、医療機器導入でのリース化と。リースで購入するんですよ、複数。それは県で一緒になって、厚生連も含めて医師会も含めて、高額なん全部出していけばきりがありませんので、ぜひリース方式導入を進めていただきたい。

それと花角知事が、ちょうど健康医療、介護のデータの連携による新潟新世代系列ケア情報基盤の構築、これも大いに期待してるということもございます。その中で医療分野の地域連携ネットワークやICT化、それに医療ビッグデータの活用、それに遠隔医療の実現できるようにしていただきたい。新潟県には、医師少ないんです。全国規模を見て、全国にいい医者があるので、それで遠隔医療できるような体制を整えるんですよ。私はそれが必要だと思います。それが1点と。

放射線診断医、CTとかMRI、これも遠隔医療、それはベンチャー企業と数十人の契約をしていました、九州のどこかだと思いましたが。スケジュールを把握して、管理して、診断、ネットワーク活用、5日ぐらいかかるところを、最短で二、三時間で報告書ができるんですよ、そこに人がいなければ。そのネットワークを遠隔医療を使うことによって、遠隔システムで、女性が継続就業もできる。放射線診断医、それがおるんですよ。そういうのも県を通じて、いろいろな形でできる方向にしていきたい、こう思っておるんですが、その辺見れば、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

医療機器の最先端、またその地域の医療支援の現状というような中で今、ご指摘いただいたんだと思っておりますが、まずはやはりこれからの医療というのは、どうすべきか、要するに医師・看護師不足というものを含めて、そういうやはり環境の中で広い県土の中では、やはりどういうバランスがいいのか、今の7圏域のみならず、そういったところをしっかりと関連するものも含めながら大枠で、やはりしっかりとした基準なり考え方を示す中で、県民はひとしくどこにいても医療の提供を受けれるものにしていかなくてはいけないんだろうと思っております。そういう中において、そういう核となるところに今ご指摘いただいたような医療機器を配置しながら、バランスよくしていくことが大事だろうと思っております。県立病院だから絶対残さなくちゃいけないとか、民間病院だったらもう誰に任せて医師不足なら閉院すればいいわという感覚ではないと。どうしても必要だったら民間病院でも残していただく。余り競合するようだったら県立病院をなくしていただいてもいいんじゃないかというぐらいまで、そういうとこまでぐらいやはり県の主導の中で、これからの県の地域医療はどうあるべきかというのを、やはり私は検討していただきたいという気持ちで要望してまいりました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

市長おっしゃるとおりで、ぜひ財政、県も厳しいですし、その辺の大改革含めてやっていただきたいと思います。

次、進みます。

5番目のひきこもり対策ですが、この春には中高年のひきこもりが61万人ということで、報道もありました。この辺で中高年のひきこもりも深刻な問題と考えますが、市では、この中高年のひきこもりについて、問題をどう捉えているか、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

中高年のひきこもりにつきましては、長期化するケースが多く見受けられ、若いうちから仮にひきこもりになった場合、同居の親の高齢化に伴いまして、孤立した状態から抜け出せず、親の介護と生活全般にわたって困窮な、困難な状況になる、そういうふうと考えられます。そのためには、まず相談しやすい体制づくり、それから生活が困難になる前に、ご相談を行政なり窓口なりにいただけるよう周知・啓発に努めるということが一番大切だというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ上越で取り組んでおられるユースアドバイザー養成講座とか、いろいろな形でやっていただきたいと思いますし、これ地域全体で理解して取り組む、粘り強く支えていくことが大事だと。そのためにもひきこもりの状態にある方や、そのご家族を受けとめる地域の環境づくり、これは佐渡市でやってる佐渡市の地域自立支援協議会、これ若者らを支援しようとリーフレットを、大切なあなたへって作成して、気軽に相談してほしいと呼びかけてる。それと相談しやすい体制づくり、これも柏崎でひきこもり支援センター開設で、今1年ですか。まだ相談が41人、うち不登校経験者が半数を超えとるんですよ。電話相談市内外から410件寄せられているということも聞いております。ここでやっぱり医療機関と福祉機関、支援団体など、どれだけこれから総合的な解決力をアップしていくか、とても重要だと思うんですが、この辺総合的に考えて、どう取り組むべきか、糸魚川市ではいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今お話がありましたようにひきこもりの状態にある方、こういう方々については、生きづらさを感じて、孤独だとか孤立の中で大変苦しんでおられるというふうにお察しできます。当事者を理解し、そして受けとめて、そして継続的に支援していくということが一番大事でないかなというふうに考えております。そのためにも、先ほどありましたユースアドバイザーのような人材育成というのは大変重要であり、ひきこもりの支援関係者に対しては、講演会などの啓発事業、それからスキ

ルアップの研修会などによって、引き続き人材の育成と確保に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひよろしくお願いいたします。

次へ行きます。

6番目の地域産業振興策の一番下の（4）市としてのマイスター制度、これを確立すべきだと思う。先ほどの答弁だと研究していくということなんですが、6月に東野議員からありましたようにプラットフォーム事業で、その辺も含めてやっていくべきだと思うんですが、シェアリングエコノミーやいろいろな形で6項目、商工会議所ではやるんですが、ヒト、モノ、ワザ、このワザの部分はここだと思うんですが、その辺も含めてぜひやるべきところ、先進地もいろいろございますが、その確立は研究ではなく、取り組むと言っていたいただきたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

このマイスター制度につきましては、厚生労働省の中でのものづくりマイスター制度というものがございまして、建設業、製造業に該当する職種について制度を設けているものでございます。当市におきましても、技術者離れが叫ばれている昨今でございまして、基幹産業であります製造業ですとか、建設業につきましても、この技術者の採用というものには大変苦勞をされておられます。後世に技能を伝えていくことは、非常に大事なことだと思いますので、今現在、商工会議所と一緒に取り組んでおりますプラットフォーム事業のシェアリングエコノミーの取り組みの中で進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思います。

次、（1）のリーサスでございしますが、今やっぱり時代、ビッグデータとかいろいろな形で糸魚川をどうすべきというのを、AIやコンピューターでやっていただくべきところにも来てると思うんですが、その辺も含めて地域経済循環分析というのがあるんですが、それで糸魚川市の丸裸にして、健康診断の結果、その辺のデータはどのようなことがわかりましたか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

リーサスとは別に、環境省から地域経済循環分析ツールというものが公表されておりますけども、このことであるというふうに考えております。このツールにつきましては、環境省が平成27年度につくりまして、産業の実態等を可視化する分析手法ということで、28年度から自動分析ツールが構築されております。

ここに糸魚川市の状況を入れてみますと、その概要につきましては、糸魚川市では建設業が最も付加価値を稼いでいる産業である。製造業では、化学が最も付加価値を稼いでおり、次いで、電気機械、一般機械が付加価値を稼いでいる産業である。生産誘発効果は、化学、繊維、その他の製造業等で高く、影響力係数が大きい産業ほど、地域内への波及効果が大きいとされております。自動分析ツールでございますので、全くこのとおりであるかどうかは、ちょっと疑問のところもあるんですが、こういうふうに分析をされております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひこの地域経済循環分析、それも大事なんですが、リーサス、これもやっぱりいろんな形でやってるんで、それも集めて、ぜひ今後の糸魚川市をどのように政策的に反映していくか、それと今のあった経済の健康診断によって、どう実感する結果を見い出せるかって、すごく調査分析して、次の政策に生かしていただきたいと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

リーサスにつきましては、いろんなやっぱり指標があるんですね。例えば人口マップで、人口の移動ですとか、あと地域経済の循環マップですとか、あと産業構造、企業活動、観光マップとまちづくりマップと、いろんなデータがそろっておりますので、そこら辺を特にタイムリーな、特に担当者がここは特筆すべきだ、ここはどうしても自分で分析をしてみたいというところの、まずは意識を持ってもらわないと幾らあってもだめだと思うんですね。そういったところで、まず、自分がこうどうしても調べたい部分というのを特化していく中で、情報を引き出しながら他市との比較も、これ当然できるようにはなっていますし、すぐグラフ化で見える化もできるものになっておりますので、そういったところを特徴を捉えて、有効に活用させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひこれも分析して、個々の課で行ったのをどうトータルで糸魚川市がやっていくかを含めて、それこそチーム糸魚川でどう次の予算化をするか、先ほども申しあげました来年度には、地域創生



の総合戦略の見直しもごさいます。ぜひその辺も含めてやっていただきたいと思います。

もう一点が、(2)の産業活性化センター、これも市と一緒に動いていただくということで、以前、建設産業常任委員会で岡崎市、岡ビズ、岡崎ビジネスサポートセンターが、また富士市のエフビズとかいろいろな形で商工会議所、市、金融機関、いろいろなところでタッグを組んで、この企業をどうすべきかということを考えながら進める産業振興、私はそこまで委託するか、自前でやるかは別として、そこに今来とると思うんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるように富士市では、エフビズ等によって産業活性化を支援しているという状況でございまして、この産業活性化センターが、質の高いワンストップサービスを提供する産業振興の拠点として機能するには、単なる支援機関の窓口を統合するだけではなくて、専門的な知識を持ったコーディネーターの配置というのが必須になってくるというふうに思っております。現在、商工会議所が行っております産業創造プラットフォーム事業が、その取り組みが広がりを見せていったときに、この産業活性化センターの話題、形というのが、より具体的なものになってくるのではないかとこのように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ企業支援の支援、企業への支援、成功の秘訣、3つが、1つがオンリーワン、2つ目が情熱、3つ目が行動力だそうです。ぜひそういう企業がふえるようお願い申し上げまして、一般質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

15時25分まで休憩といたします。

〈午後3時10分 休憩〉

〈午後3時25分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕